

総合評価落札方式の導入

総合評価落札方式の導入方針(案)

(1) 適用業務の範囲

総合評価落札方式の適用業務は、技能・技術を確認することにより品質を確保する必要がある業務とする。

プロポーザル方式の適用業務の基本的考え方は現行通りとする。

(2) 落札者の決定方法

落札者の決定方法は加算方式とする。

(3) 配点方法・評価項目

価格点と技術評価点の得点配分は、1:1から1:3とし、業務内容に応じて適宜設定する。

入札・契約方式の選定の基本方針(案)

1. 価格競争入札

業務実施手順や積算基準が明瞭である業務。

2. プロポーザル方式

高い知識や構想力・応用力が必要とされるため、発注者側において、適正な品質を担保するためには、事前に受注者の技術力を審査する必要がある業務。

3. 総合評価方式

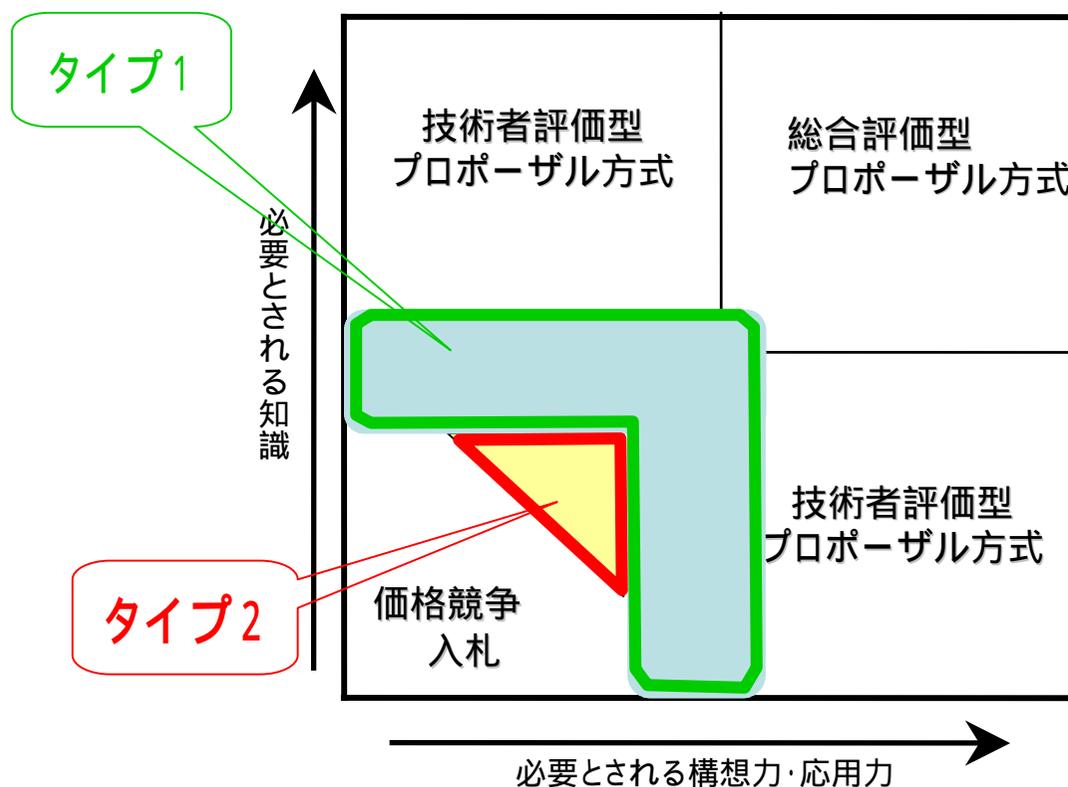
高い知識や構想力・応用力が必要であるが、業務実施手順や積算基準が明瞭である業務。

総合評価方式適用業務の考え方(案)

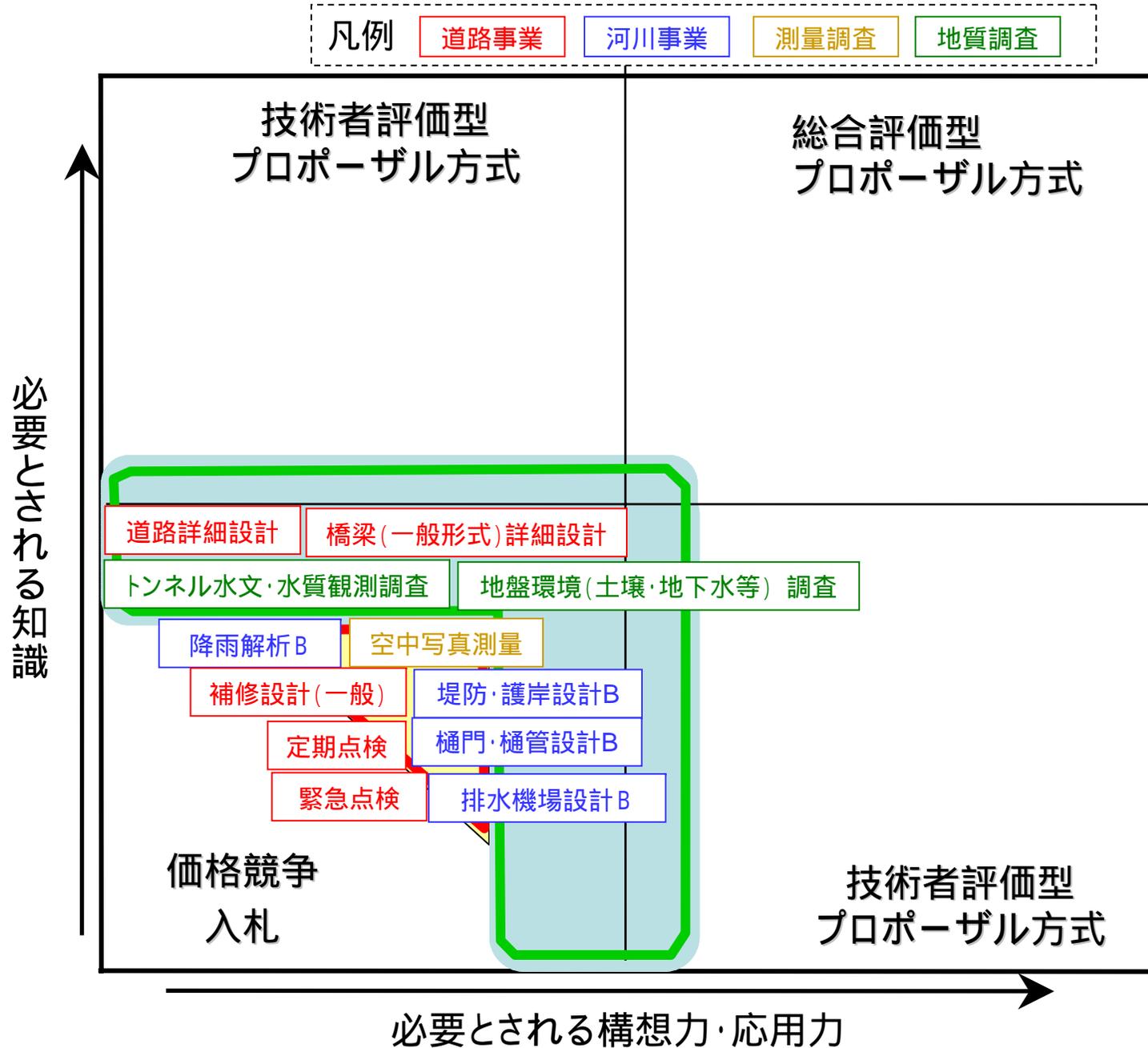
総合評価落札方式の適用業務(案)を以下のとおり検討しているところ。

(タイプ1) 技能・技術を確認すべき業務として、一部地整で先行してプロポーザル方式としているが、当面は総合評価とする業務

(タイプ2) 業務実施手順や積算基準が明瞭であるが、技能・技術を確認することにより品質を確保する必要がある業務



総合評価方式適用業務のイメージ(案)



落札者の決定方法(案)

建設コンサルタント業務等の特徴

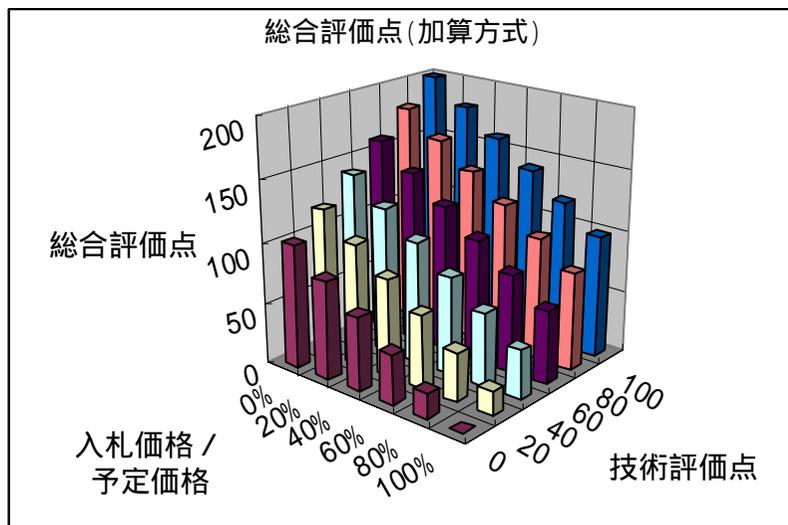
業務成果の良否が建設コストや維持管理コストを大きく左右するため、受注者の技術的能力に重点を置いた選定が必要。

資材購入や下請による労務調達等の割合が大きい工事に比べて、購入・再委託の割合が小さいため、落札率を下げやすい傾向。

加算方式を採用

加算方式

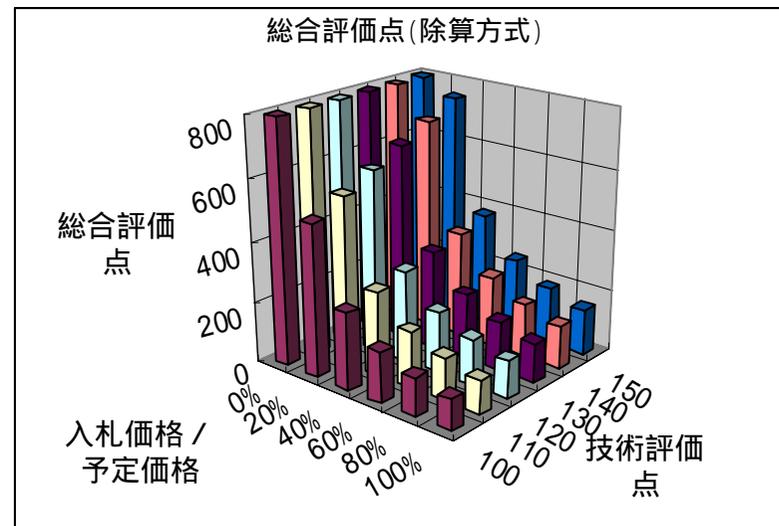
$$\begin{aligned} \text{評価値} &= \text{価格評価点} + \text{技術評価点} \\ &= 100 \times (1 - \text{入札価格} / \text{予定価格}) + \text{技術評価点} \end{aligned}$$



: 価格評価点 : 技術評価点 = 1 : 1 の試算例

除算方式

$$\text{評価値} = \frac{\text{技術評価点}}{\text{価格}} = \frac{\text{標準点(基礎点)} + \text{加算点}}{\text{価格}}$$



: 標準点 100点、加算点 50点 の試算例

研究開発等の総合評価落札方式における 価格点と技術点の配分について

経済産業省による調査等の業務委託に関する総合評価落札方式についての財務大臣への協議文
(平成18年7月27日付け)の該当箇所概要

入札価格に対する得点配分と、技術等に対する得点配分は、研究開発等の目的に応じて、それぞれ以下の表の範囲内において、各省各庁の長が定めることとする。

	価格点の配分	価格点：技術点
研究開発	1/4以上	<u>1：3</u>
調査	1/3以上	<u>1：2</u>
広報	1/3以上	<u>1：2</u>

価格点と技術等の配点の妥当性

研究開発等は、要求する技術等の要素(研究アイデア、調査手法の創造性、新規性)により、その成果が大きく影響することから、技術点に重点を置いた総合評価による必要があることから、価格点より技術等の配点を多くしている。

なお、研究開発の価格点と技術点の割合を1：3を限度としているのは、研究開発の業務については、調査、広報に比べてより技術的要素に重点を置いて評価する必要がある場合があると考えられるためである。